自然災害のリスクを知り災害を自分事として捉え、防災意識を高める

ネイパル深川

Enjoy snow！Try survival！

1　事業のねらい

体験活動を通して、自然災害のリスクを認識すると共に、災害を自分事として捉え、家庭、地域の防災意識を高める機会とする。

2　事業の概要

■期日 R7.1.9(木)～1.11(土)
■対象 小学生５・６年、中学生　20 名
■人数 10 名
■場所 ネイパル深川

3　プログラム

日時	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
１／９（木）	★受付時間　12:30～13:00 ★開　会　式　13:00～13:30						受付	開会式	ミッション①「雪を満喫せよ！」		入室	夕食	ミッション②「ハザードマップを読み解け！」	入浴	自由	消灯
１/10（金）		朝食	準備	ミッション③「避難生活を体験せよ!」	ミッション④「炊き出しをせよ！」		ミッション⑤「防災アイテムを作成せよ！」		休憩	ミッション⑥「おいしい防災食を調理せよ！」			ミッション⑦「寝床を確保せよ！」	入浴	自由	消灯
１/11（土）		朝食	片付け	ミッション⑧「防災マスターを目指せ！」		閉会式	★解散時間12:00									

4　ねらいを達成するための活動の工夫

■普段の生活から危険が及ぶことを意識させることで、災害を自分事として捉えるように意識させた。
■防災に対する考え方を整理し、生活の中で意識すべきことを確認する時間を設定することで、防災意識を高める機会となるように工夫した。
■自分が住む地域の危険をハザードマップで知ることで、地元の地域に目を向けるきっかけとなるようにした。

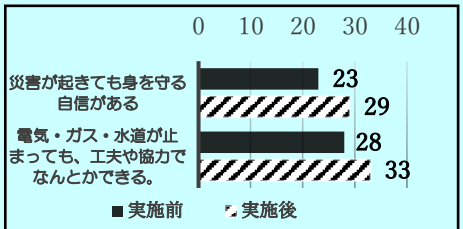
避難所運営体験の様子

かまくら体験の様子

避難所生活体験の様子

5　事業の評価

■災害に関する意識アンケートの事前・事後調査の結果、「災害が起きても身を守る自信がある」の項目に向上が観られた。防災体験を通して、自ら災害に対応できる気持ちが向上し、さらに周囲の人々が協力し合い対応しようとする意欲の向上につながった。



※評価数値の合計より算出
１：当てはまらない ～ ４：当てはまる
『子ども用防災意識尺度』より

■参加者アンケートから
・防災への事前対策をどうすれば良いか分からなかったが、日頃から家族と連絡手段について確認することが必要であることが分かった。
・様々な工夫ができたら対応できるので、自宅へ帰ったら家族に伝えて備えたい。
・思っていたより、避難生活が大変だった。

6　ねらいを踏まえた成果と課題

●事業を通して、家族の中で防災について考えていきたいと思える機会にできた。
●参加者同士で協力する活動を通して、「共助」への意識を高めることができた。
○プログラムでの活動目的やまとめを参加者へ伝えることで、参加者への「学び」の意識をさらに高めることつながる。

企画のポイント

参加者が身近で親しみを感じる防災プログラムを提供することで、防災への意識を高めることを目指した。